

経営比較分析表（令和4年度決算）

熊本県 菊池市

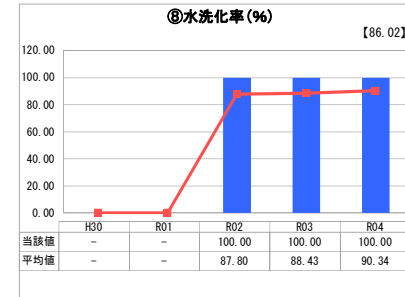
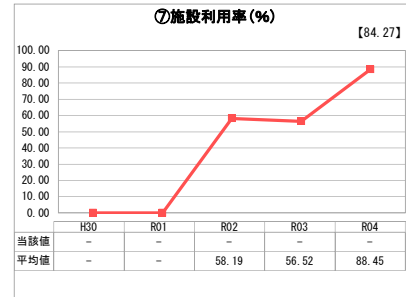
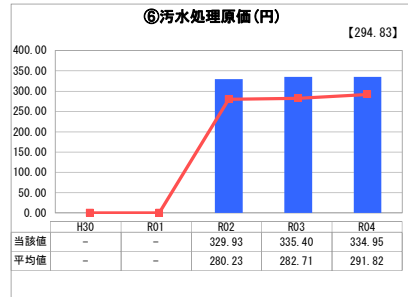
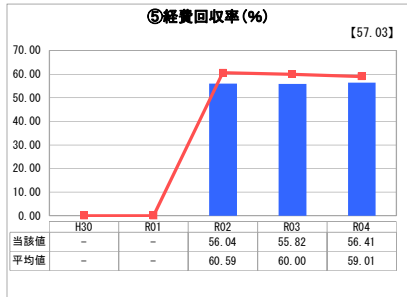
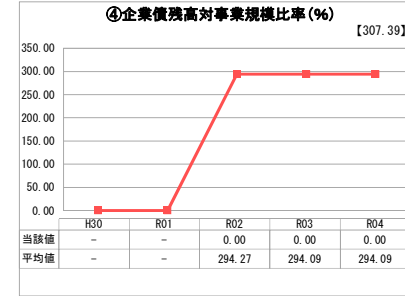
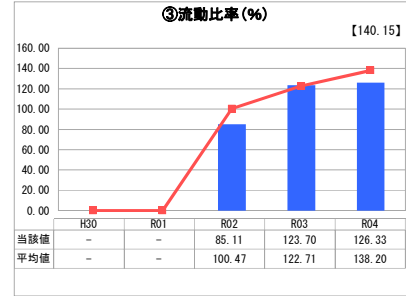
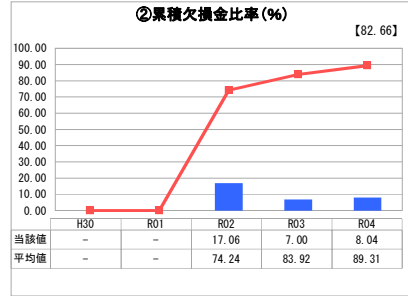
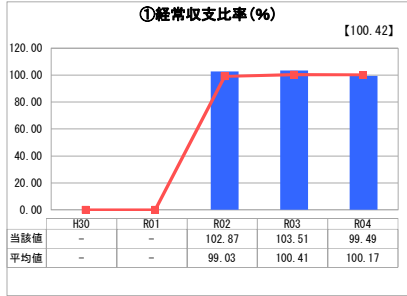
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	56.92	11.04	100.00	3,850

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
47,103	276.85	170.14
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,170	260.07	19.88

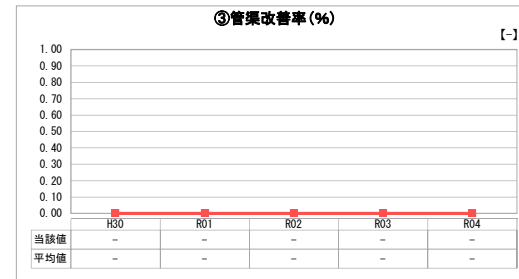
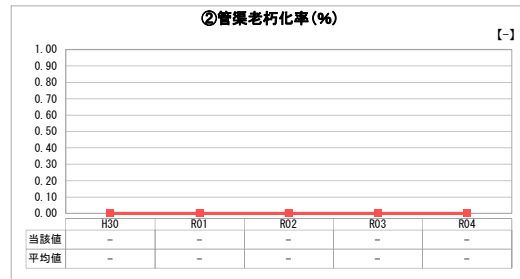
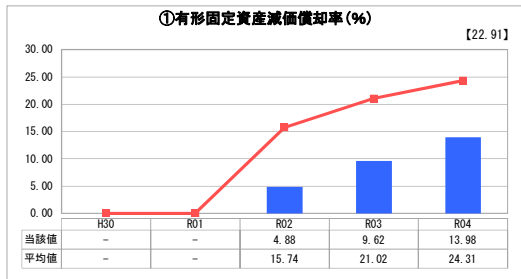
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

① 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%以下で赤字収支となった。本市では経常費用の不足分を一般会計からの繰入金で賄っているが、収支の見込み不足により赤字収支となった。

② 累積欠損金比率は一般会計からの繰入金があるにも関わらず0%を達成できず、経営の健全性に課題があると言える。浄化槽の新規設置は年70基ほどで推移しているが、設置が増えるほど維持管理費が使用料収入を上回るため、今後は維持管理費の見直しなど経費削減が必要である。

③ 流動比率は100%以上ではあるが、今後は流動負債の増加傾向がみられるため、流動比率は同水準の維持か、減少が見込まれる。

④ 企業債残高対事業規模比率は、全額を一般会計からの繰入金で賄う状況であるため、改善を図る必要がある。

⑤⑥ 経費回収率は現在、総収益においては一般会計からの繰入金に大きく依存しており、汚水処理費の56%程度しか使用料で賄うことができていない。本事業の汚水処理原価は類似団体と比較しても高い傾向にあることから、維持管理費の削減と併せて経営改善を図ることが必要と言える。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率について、本市はR2年度の法適用から間もないため類似団体よりも低くなっている。今後は計画的な更新等を行う必要がある。

全体総括

今後は人口減少により使用料収入の増加は見込めず、繰入金への依存が今より高まるものと考えられる。適正な使用料の設定、経営の改善が必要である。

今後も引き続き、下水道事業経営戦略に基づき健全経営に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。